

令和5年度 奈良県立桜井学校 学校評価計画表

【高等学校用】

年度	令和5年度(中期計画2年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	自由に、その個性に応じて時代感覚をもった学殖豊かな世界人の育成
年度重点目標	豊かに自分らしく生きるため、自分を変える「勇気」と自他を受け入れる「愛」を育み、安全・安心な社会の構築に貢献する生徒を育成します。

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針(スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	本校では、卒業までに以下の資質・能力の育成を目指します。 【全コース共通】 ○ 目指す4つの資質・能力 1 <主体的学習態度・何度でも挑戦する粘り強さ>個性を磨き、自己実現のため何度でも挑戦する姿勢 2 <課題発見提案力・社会文化探究心>社会とつながり、そのなかで課題を発見し、解決を提案する力 3 <コミュニケーション能力・リーダーシップ>身の回り状況を把握し、他者とつながり、集団を動かす力 4 <他者協働力・他者受容力>他者の気持ちや置かれている立場を理解し、多様性を認め合う態度	これらに加えて、 【英語コース】 多彩な英語学習の機会に触れることによる、英語の運用能力・相互理解力・グローバルな思考力 【書芸コース】 書の学習を通して文化と伝統を学ぶことによる、創造性豊かな感性・書道文化の発展に寄与する態度や能力
	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	本校では、3つのコースの特性を生かしたカリキュラムを編成し、桜井高校でしか行えない「学び方」を学び、自分の得意や興味・関心を伸ばす教育を実施します。 【全コース共通】 ・自己管理能力を獲得し、社会で生きる力を養うプログラム…ノーチャイム、ポートフォリオ ・基礎的学力を養うプログラム…オンライン学習 ・情報収集を行い活用する力を養うプログラム…ICT教育 ・安全や健康の管理を実践し、心身の健康を育むプログラム…部活動、三輪山走歩大会 ・コミュニケーション能力・リーダーシップを高めるプログラム…フューチャーセンターの活用、生徒会活動	多様性を認め合い、人間的魅力を磨くプログラム…人権学習会、異文化交流 ・集団や社会に貢献する態度を伸ばすプログラム…地域連携、社会貢献活動、キャリア教育 ・得意分野を発見し、とことん探究するプログラム…カリキュラム選択、総合的な探究の時間 ・批判的思考を養い、表現するプログラム…アクティブ・ラーニング、プレゼンテーション ・将来像(夢)を確立し、自己実現を目指すプログラム…キャリアデザインルーム、インターンシップ
	育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)	本校では、「本校の使命」及び「教育方針」を理解し、その達成を目指す意欲に溢れた生徒を受け入れます。特に、英語コース及び書芸コースにおいては次のような生徒を受け入れます。 【英語コース】 英語への興味・関心が強く、入学後は総合的な語学力や幅広い教養を身に付けたいという姿勢や意欲があり、将来は国際社会で活躍したいと望む生徒 【書芸コース】 日本や中国などの東洋の伝統文化である「書」に興味・関心をもち、入学後は積極的に「書」と向き合い、より深く学びたいという熱意や意欲がある生徒	自分の得意や興味・関心を伸ばす教育を実施します。 【英語コース】 英語の運用能力・相互理解力・グローバルな思考力を獲得するプログラム…イングリッシュキャンプ、海外修学旅行、高大連携 【書芸コース】 知識・技能と芸術性を獲得するプログラム…T・T授業、卒業書作展、海外修学旅行、高大連携

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和5年度末の目標値等(C)	現状	令和5年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
1. 心と身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	健康教育の充実	「健康に関する指導が適切」と回答する生徒の割合 85%以上	昨年度の84%を上回る数値。					
	望ましい運動習慣の確立	スポーツテストのスコア54ポイント以上の生徒の割合 50%以上	目標値の50%以上を目指す。					
	豊かな教養の獲得	図書館を利用した生徒延べ数 3,000人以上	昨年度の利用者数(3,199人)を上回る生徒延べ人数。					
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びによる授業の実施	「授業に対して全般的に満足している」と回答する生徒の割合 85%以上	目標値の85%以上を目指す。					
	主体的学習態度の育成	ノーチャイムで自分から動くことを心がけ実践する生徒の割合 100%	アンケートで90%を上回る回答を維持できるようにする。					
	家庭学習習慣の定着	1日平均60分以上自主的な学習をする生徒の割合 75%以上	昨年度の実績を上回ることを目指す。					
	学校における働き方改革	ICTを活用した校務の効率化を図る。月1度の定時退校日の設定。	学期に1回の定時退校日の設定。					
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	自己管理能力の育成	1年生で「1週間の計画を立てられるようになった」と回答する生徒の割合 60%以上	GoodBadNextタイムを使い、昨年度の55%を上回ることを目指す。					
	進路情報の提供の充実	「進路行事等で自分の進路に関する情報を得られた」と回答する生徒の割合 70%以上	目標値の70%以上を目指す。					
	キャリア教育の推進	アカデミック・インターンシップを含めたインターンシップに参加した生徒の割合 25%以上	目標値の25%以上を目指す。					
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	主体的活動への参加意欲の向上	ボランティア活動に参加する生徒の割合 80%以上	80%を上回る回答を維持できるようにする。					
	社会参加活動の推進	様々な活動を通して主体的な社会活動への参加意欲が向上した生徒の割合 70%以上	70%を上回る回答を維持できるようにする。					
	社会的マナーの遵守	「日常的に交通ルールやマナーを遵守し実践している」と回答した生徒の割合 95%以上	アンケートで95%を上回る回答を維持できるようにする。					
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権意識の向上	「人権や命について学ぶことが多かった」と回答した生徒の割合 90%以上	90%を上回る回答を維持できるようにする。					
	環境整備意識の醸成	校内を美しく保つことを意識している生徒の割合 90%以上	90%を上回る回答を維持できるようにする。					
	特別支援教育の推進	教育相談委員会を月に1回開催し、支援を必要とする生徒の情報を共有し、個別の支援計画を作成する。また、SCを積極的に活用する。	学期に1回の教育相談委員会の開催。					
	課題解決提案力の育成	フューチャー・センターが役に立っていると感じる生徒の割合 60%以上	60%を上回る回答を維持できるようにする。					

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

--